

様式第 11 号

博士論文審査結果報告書

令和 4 年 1 月 19 日

神奈川県立保健福祉大学大学院
保健福祉学研究科長 殿

博士論文審査員

主査 榭 恵子

副査 川名 るり

副査 新保 幸男

博士論文審査及び最終試験の結果について、次のとおり報告します。

申請者氏名	安藤 里恵	学籍番号	61920001
論文題目	糖尿病療養指導の専門性を有する看護師による 成人期にある人への受診中断予防のための援助		
審査年月日	令和 4 年 1 月 19 日		
論文審査及び 最終試験結果	合格 ・ 不合格		
添付書類	1 博士論文審査及び最終試験の結果の要旨 (様式第 12 号) 2 論文の要旨 (様式第 8 号)		

博士論文審査及び最終試験の結果の要旨

氏 名	安 藤 里 恵
論文題目	糖尿病療養指導の専門性を有する看護師による 成人期にある人への受診中断予防のための援助
論文審査員	主 査 榑 恵子 副 査 川名 るり 副 査 新保 幸男
<p>【論文審査の結果の要旨】</p> <p>日本の糖尿病有病者数は約 1000 万人、受診中断者は年間約 8 % と推定される。特に 2 型糖尿病では自覚症状に乏しいため、合併症や重症化による QOL 悪化の観点から喫緊に対策が必要である。そこで、本研究では、糖尿病患者の受診中断に関する知見につきスコーピングレビューを実施し（研究 1）、受診中断ハイリスクの 2 型糖尿病患者の特徴と糖尿病療養指導に専門性を有する看護師の受診中断予防のための援助と課題を明らかにした（研究 2）。</p> <p>研究 1 では、疫学的、経済的要因に加えセルフケア能力や自己効力感の低下に関連した複数の要因が相互に強化されて受診中断に至ること、受診中断者が求める支援を考慮することが受診中断抑制につながることを示唆された。</p> <p>研究 2 では、2 型糖尿病患者受診中断ハイリスク者への支援経験を持つ、看護師経験平均 27 年の看護師 25 名を対象としてフォーカス・グループ・インタビューを実施し、S.ヴォーンによる質的データ分析の手法により分析した。その結果、受診中断ハイリスク者の特徴、受診中断予防への援助、受診中断予防の課題について、リアリティ溢れる語りからカテゴリー化された。受診行動に負担感を持ち、糖尿病に関するヘルスリテラシーを持たず、療養に向かうパワーが弱まっている受診中断ハイリスク者に対する受診予防のための援助として、受診できない背景や気持ちに合わせて強弱をつけてタイミングよく関わり、環境調整や多職種協働を含めた具体的な受診勧奨方法を模索するなど、受診への障壁を低減するために多角的にアプローチすることが重要であり、1.連絡がつかず受診推奨できない、2.必要な人に必要な援助が行きわたらない、3.患者の実情に応じて最適な治療を継続するための多職種や地域の専門職との協働が発展途上である、の 3 点が今後の課題であることが明らかにされた。受診中断患者への援助については看護師による研究が多いが、具体的アプローチや課題に着目したものは見当たらない。その点において本研究は新奇的でオリジナリティが高く、現状に即した糖尿病患者受診中断予防プログラム発展に学術的に寄与するものでかつ、保健・医療・福祉分野において意義が大きい。博士学位論文としての水準を満たしていると判定した。</p>	

【最終試験の結果の要旨】

博士論文審査及び最終試験は令和 4 年 1 月 19 日、13 時から実施した。冒頭 30 分間で申請者の安藤里恵より研究内容の発表があり、その後、主査、副査による口頭試問を 45 分間行った。

研究の目的、研究の理論的背景、理論的背景に基づいたデータ分析と考察、日本における 2 型糖尿病受診中断ハイリスク患者研究についての国際研究との比較、多職種連携の実態や、患者の治療継続にあたる経済的支援の現状について質問がなされた。申請者は質問に対して全体的確に手応えある回答を示し、さらに研究の動向や課題について、患者の個別性、医療、看護、社会的支援の観点から、多角的に非常に広く深い知識をもっていることが明確になった。

博士後期課程在籍中には、コロナ感染拡大状況が続き、研究参加者とのアクセスやインタビュー実施にあたる困難が長く続いたが、その中で、できることから着手し、逆にオンラインインタビューを活かして南北全国各地からの研究参加者を得るなど前向きに取り組んできた。現在も研究成果を現場に還元しながら、残された課題に対して次の研究に着手しており、保健福祉学の学位を取得する者として大いに期待できる人材であることが明らかになった。

以上を持って総合的に評価し、審査員全員一致により、最終試験を合格とした。